



NAGASAKI  
MONO-GRAPH

15

有限会社 光春窯

ユウゲンガイシャ コウシュンガマ

### 暮らしの中で美しく働く器を

器だけが際立つよりも、料理を盛り付けておいしそうに見えるように。毎日使いたくなるシンプルな美しさと、手仕事による温かさが同居した器づくりに定評がある。光が透けて模様浮かび上がる伝統的な「蛸手」を使ったカップ、甘いお菓子を連想させる小さな豆皿。手軽で良質な暮らしの器を――。400年以上前から続く波佐見焼の原点を大切にしながらも、現代の感覚を取り入れた自由な発想で独自の世界観を築いている。人気の理由が美しい色彩。仕入れた釉薬に

手を加え、難しい色もきれいに表現できると業界内でも評判だ。ゆっくり丁寧に。素焼きした器を釉薬にとぶんと浸し、職人が1つずつ手作業で塗っていく。さらに落ちやすい部分は筆を使って塗り直すという細やかさ。こうして焼成を待つ同じ形をした器たちは、細長い板に乗せられ窯の中へ。焼き物は自分の力だけでは生まれない。土の力、釉薬の力、火の力。どんな風に焼き上がるのか、待っている時間も楽しいものだ。





消費者に好まれ需要が高い  
独自窯変技術を生かした  
陶磁器の生産拡大

｜ 補助事業のきっかけ ｜

ニーズと生産量がアンバランス  
2カ月以上の納品待ち状態も

窯の中の温度や火の当たり具合によって、さまざまな表情を見せる多種釉薬を開発。テーブルがぱっと華やぐ多彩な色彩、色調の窯変釉が安定した陶磁器を得意とする。その付加価値の高さから消費者にも評判ながら、焼成用の炉が小さいため、1回当たりの焼成量が限られていた。結果、ニーズを満たす量が作れず、常時2カ月以上の受注残を抱える事態に。

｜ 補助事業の内容 ｜

約3倍の広さを誇る新設炉で  
生産力向上と品質の安定化を

1991年に取得した既存の炉は0.7㎡と小さく、制御能力の制限があった。焼成数を増やそうとすると、焼成時の配置が違っただけで、同じ釉薬で同じ物を焼いても安定した結果が得られないことも。これでは強みである色彩や色調の美しさ、肌合いが安定しないため商品化するのは難しい。そこで2.5㎡の広さを誇る新しい炉を導入することで生産量を確保したい。

｜ 補助事業の成果 ｜

今のライフスタイルに合わせた  
より質の高い陶磁器を安定的に

既設窯は手動制御だったため、窯入れはスタッフの勤務に合わせて0.7㎡の窯を1日1回。しかし、新設炉は温度や酸素を自動で制御できるシステムが搭載されており、1日に2.5㎡の窯を1回窯入れが可能に。生産性が必然的に上がり、さらに温度を均一に保てるので焼けムラも少なくなった。今後も釉薬と焼成条件を自由自在に組み合わせた陶磁器を製作しながら独自の路線を貫く。



Information	会社名	有限会社 光春窯
	住所 連絡先	東彼杵郡波佐見町中尾郷627 ☎0956-85-4550 FAX.0956-85-7272 ✉koushungama@gmail.com
<ul style="list-style-type: none"> <li>□代表取締役 馬場 春穂</li> <li>□設立 1989年1月4日</li> <li>□資本金 1,000万円</li> <li>□業種 窯業・土石製品製造業</li> <li>□従業員 11名</li> </ul>		